

南アフリカ為替週報

2021年8月19日 | みずほ銀行欧州資金部

MIZUHO

＜過去1週間の動き＞

(8月12日～8月18日)

USD/ZAR: 14.6450～15.0000
ZAR/JPY: 7.31～7.54 (参照値)

過去1週間の南ア・ランド相場は、下落。対ドルでの値動きを振り返ると、週明け16日以降のランド安は、ドル全面高の結果と思われた。一方で、13日にかけて(主要通貨などに対して)ドルは全面安に振れていたが、この局面でランド上昇の勢いは弱く、振り返って、この間、予想外に一方的なランド軟調が続く結果となった。16日以降、発表された米経済指標の内容は交錯しており、米株、原油、貴金属、産業金属など資産市場全般も方向感の交錯した乱高下を見せた。このドル高の要因は定かでなかったものの、ひとつの可能性として、アフガニスタン情勢の混乱を嫌気した、古典的な「有事のドル買い」は考えられた。また、プラチナ、ニッケルなど資源価格の下落は、直接にランド下押しの要因にもなったことだろう。13日にかけてのドル安は、ミシガン大学の8月消費者マインド指数暫定値(13日)の低迷など、米経済指標の不調を言い訳とした。この局面で、ランド買いの勢いが弱かったのは、引き続き、ムボウエニ財務相辞任(5日)と南ア財政の先行きに対する不安が重石になったものと考えられた。18日に発表された南ア7月CPIは、市場予想を若干下振れたものの、いずれにせよ南ア準備銀誘導目標(+3～6%)の中心値近傍である点に大差なく、ランドはほとんど関心を示したようには見受けられなかった。

＜過去1週間に発表された主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
8/18	8:00	CPI(前年比)	7月	+4.6%	+4.7%	+4.9%
	11:00	小売売上高(前年比)	6月	+10.4%	+9.5%	+16.3%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

＜向こう1週間の見通し＞

(8月19日～8月25日)

USD/ZAR: 14.850～15.300
ZAR/JPY: 7.20～7.45

向こう1週間の南ア・ランド相場は、続落を予想。対ドルで、心理的な節目と思われる15.0を割り込み、取引水準を一段切り下げる可能性を警戒する。金融市場全般の関心は、現在、26～28日のカンザスシティ連銀経済シンポジウム(@ジャクソンホール)に集まっている。米連銀パウエル議長が、金融緩和縮小のタイミングに関し、なんらかの示唆をする(或いはしない)可能性が注目されているわけだが、傾向として、市場は、緩和縮小(=引き締め)着手に関して具体的な時期が示されることを期待しているように感じられる。言い方を変えるならば、「ドルを買う言い訳を待っている」「ドルを買いたがっている」ように見えるということだ。一方で南ア側の要因だが、暴動の処理、内閣改組など、この間の出来事は、ラマポーザ大統領の政治基盤という目線で、重要な進捗と評価することができるはず。現在は、固めた基盤の上で「何をするか」「何ができるか」が問われていると考えられるが、良い意味でも、悪い意味でも、早晩、結果を出すのは難しいのではないかと。まずはドングワナ財務相の手腕に注目だが、これは、百の約束よりも、具体的な行動を見る他ない。公務員賃金交渉が一段落した現状から、最悪の場合(最も遅くて)11月2日の中期予算政策声明(MTBPS)まで様子見を続けさせられる可能性もあろう。もう一点、足下気掛かりなのは、8日発生した大型火力発電所(注1)における爆発事故の影響。6月にラマポーザ大統領が発表した発電免許取得要件の緩和(注2)が、12日、政府官報に掲載される形で正式に決定したのは、電力安定供給という意味でも、投資誘致という意味でも、(温暖化抑制のための技術開発促進という意味でも)大きな前進と評価できるが、同事故が水を注してしまった格好になったのは残念なことだ。他にも、コロナ禍対策(ワクチン接種)、電波周波数帯入札(投資誘致案件)など、危急の課題はいくつも挙げられるが、どのタイミングで進捗が見られるのかは、今の時点でははっきりとしない。

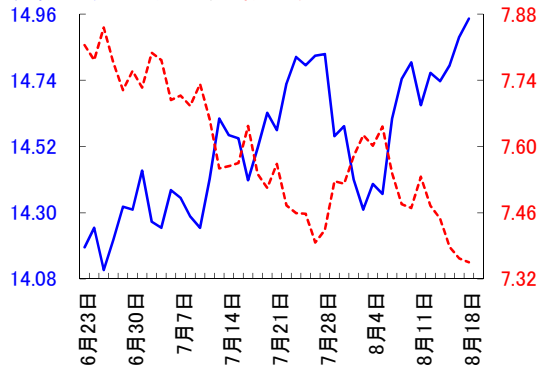
＜向こう1週間に発表予定の主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
8/19-8/20		鉱業生産(前年比)	6月		+21.2%	+21.9%
8/24	7:00	失業率	Q2			32.6%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

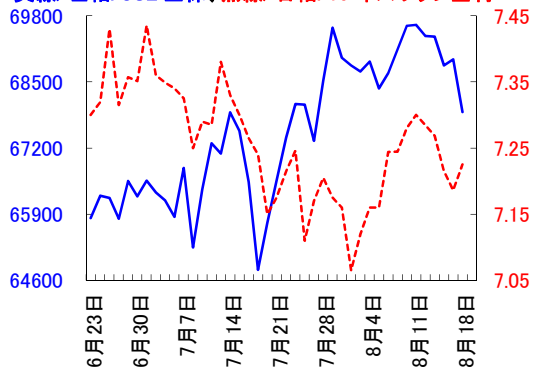
為替相場の推移 (資料: ロイター)

実線/左軸: 対米ドル、点線/右軸: 対円



株式/長期金利の推移 (資料: ブルームバーグ)

実線/左軸: JSE 全株、点線/右軸: 10年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レボ金利)		3.50%
長期金利(10年スワップ)	8月18日	7.225%
株価指数(JSE 全株)	8月18日	67905.68
成長率(GDP/前年比)	Q1	-3.2%
経常収支(ZAR)	Q1	+267bn
失業率	Q1	32.6%
消費者物価(前年比)	7月	+4.6%
小売売上高(前年比)	6月	+10.4%
製造業生産(前年比)	6月	+12.5%
鉱業生産(前年比)	5月	+21.9%
貿易収支(ZAR)	6月	+57.7bn
金価格(ロンドン 17:00)	8月18日	1784.09

(注1) 南ア電力公社(Eskom)の Medupi 発電所4号機

(注2) 発電事業免許取得を要する発電容量を、従来の1MW(メガワット)から100MWに引き上げ、発電事業への参入を容易にした(例えば鉱山会社などが、免許を取得しなくても独自に発電できるようにした)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。